

2級建築士

1. 講座の概要

2級建築士は、大きく「学科」と「製図」があり、それぞれ「無料講座」と「会員講座」がある。

過去問は、建築技術教育普及センターとの使用許諾条件から会員講座のみでの公開としている。毎年(年末)、その年の最新問題の使用許諾を頂き、その後、解答例を追加する。

2級建築士の講座は、2007年(H19)から最新年度の過去問を解説している。2級建築士の合格率は、1級建築士と比較する場合、学科から製図でのストレート合格率は約3倍(下記参照)と高いので、比較的合格しやすい。ただし、近年の問題は、かなり1級建築士の問題に近づいており、難しい問題が多々見受けられるようになった。

以下に、1級建築士と2級建築士の学科及び製図試験の合格率を示す。過去数年の2級建築士の合格率は、学科30～40%、製図50～55%、最終20～25%である。

・1級建築士(2016年の合格率):学科=16.1%、製図=42.4%・・・ストレート合格なら **6.8%** と弁護士並みの難易度

・2級建築士(2016年の合格率):学科=42.3%、製図=53.1%・・・ストレート合格でも **22.5%** と通過可能な難易度

製図試験の予測課題は、1級建築士の製図解説と同じように、「80%以上ズバリの中する項目別の予測課題の解説」をする。ただし、その予測課題は、現段階では、1点予測課題の取りまとめとしている。

2級建築士は、大学、短大、高等専門学校で指定科目を修めた方は、実務経験0年で受験できる。高等学校で指定科目を修めた方は、実務経験3年で受験でき、学歴がない方でも実務経験7年で受験できる。令和2年からは2級建築士合格後に直ぐ1級建築士が受験できるようになった。

つまり、全く建築に関係のない方でも、実務経験により「2級⇒1級⇒設備・構造1級」の全ての資格を取ることができる。

・7年経験⇒2級建築士

・翌年受験可⇒1級建築士

・5年経験⇒設備・構造設計1級建築士

建築業界で生きていくと志を持たれた方は、当HPを活用して、2級建築士取得後に1級建築士の取得を目指しませんか。

建築系資格では、最難関と言われている1級建築士について、当HPの講座は効率よく学習できる内容となっている。また、会員講座であっても年会費2万円(延長時は1万円/年)と格安で全てを閲覧できる。2級建築士取得後から1級建築士の受験までは4年間であったが、令和2年からは2級建築士合格の翌年に1級建築士が受験できる。その間、当HPを活用して1級建築士の1発合格を目指しませんか(資格学校へ通学すると単年度で短期30万円～長期100万円、2年、3年とかかると×2、×3倍と高額に跳ね上がる)。

なお、例えば1級建築士合格後5年経験で設備設計1級建築士が受験できる。当HPの設備設計1級建築士の資料(H21～H30)の過去問解説10年間のPDF資料を打出して、5年間ゆっくり学習すれば設備設計1級建築士に1発合格できると判断している。

2級建築士(学科無料講座)

1章 学科試験の現状把握

2章 4科目の項目別問題別一覧表(2007年～最新年度)

3章 過去問の出題法文一覧表(2007年～最新年度)

2級建築士(学科会員講座)

1章 4科目の項目別問題別一覧表(2007年～最新年度)

2章 過去問10年の出題法文一覧表(2007年～最新年度)

3章 4科目全問題のポイント一覧表(2007年～最新年度)

4章 4科目の過去問10年の出題問題一覧表(2007年～最新年度)

5章 年度別の問題と解説(2012年～最新年度)

2級建築士(製図無料講座)

1章 製図試験の現状把握

2級建築士(製図会員講座)

1章 センター出題課題(2012年～最新年度)

2章 センター標準解答図(2012年～最新年度)

3章 センター出題課題の項目別分析(2012年～最新年度)

4章 予測課題の解説(2017年～最新年度)